キッズだより

令和6年9月　第30号
たかとりちどりキッズ

子は親の鏡

「叱りつけてばかりいると、子どもは「自分が悪い子なんだ」と思ってしまう」

『叱る』と『怒る』、この２つの言葉の違いがわかりますか？『叱る』というのは、冷静にその行動について、諭すことだと思います。その中で善悪の判断がつくように何度も分かるように伝えていきます。『怒る』というのは、感情的に言うことだと思います。子どもは、厳しく叱りつけられたり、強く怒られたりすることが多くなると、おどおどして消極的になり、罪悪感をもつようになります。これをしたら怒られるかな？ここまでは大丈夫かな？と、してはいけないことの意味より叱られない方法を見つけようとします。そうならないために叱る時は、深呼吸をしてどう伝えるか考えてみてください。そして自分はこれをさせたら嫌だなと言うことを明確にしておく。例えば、どのタイミングで叱ることが多いのかを知ることもいいと思います。叱る方も気持ちがいいものではありません。しかし、伝えるべきことは、伝えていかないと善悪の判断がつかなくなります。子どもの話に耳を傾け、思いに寄り添い受け止め理解するように関われば、子どもは素直に行動し責任感をもって過ごせるのではないでしょうか。

毎年夏には、子どもたちとセミ捕りに行きます。梅雨が明ける頃から地面を見てセミの通り道を探します。子どもと一緒に探していると「あっ。ここにあながあいてる」と通り道を見つけ喜んでいます。穴の近くにある木を見上げると、枝や葉っぱに、抜け殻がついているのを見つけ、大事そうに持ち帰り飾りました。セミの声が聴こえると、網とカゴを持ってセミを探しに出かけます。「せんせいセミとりいこ」と誘われ一緒に行くのが日課になりました。最初は、声や動きに怖がっていた子もいましたが、友だちが触っているところを見て、触ってみようかな？もしかしてつかめるかも？と、少しずつ触れるようになりました。セミ取りをする中で「このセミ、なかないね」と気付く子どもがいました。「泣いているセミは、オスなんだよ」オスとメスの区別を伝えると、捕るたびに「これは、メスだ」「ないているからオスだ」と分かるようになりました。セミは、１週間（少しの間）しか生きられないことを伝え、捕ったら逃がすようにしています。秋は、バッタ、コオロギなどの身近な虫やどんぐり、松ぼっくりなどの自然物に触れる機会をたくさん作り、季節を感じられるようにしていきたいと思います。　　北坂　美知子

９月の予定

避難訓練	３日（火）	親子ふれあいデー	６日（金）
誕生会	１１日（水）	救急訓練	１９日（木）
発育測定	２５日（水）		

あさひ・ひかりぐみ

先月は、様々な感触遊びをしました。水遊びでは、大きなタライの中に入った水を不思議そうに見ていました。保育士が水面をたたいたり、水をかき混ぜたりすると、真似て遊び嬉しそうにしていました。寒天遊びでは、容器の中に入った寒天を握り、今にも食べそうな勢いで感触を楽しんでいました。これからも保育士が触れている姿を見せたり一緒に触れたりしながら様々な感触を楽しめるようにしていきます。

最近保育士の声かけに合わせて手足を動かし、着替えようとしています。今月は、一つひとつ丁寧に声をかけ、楽しく着替えられるようにしていきたいと思います。

ちゃぷちゃぷ

冷たいね

今月のねらい：保育士の声かけに合わせて手足を動かし、着替えに興味をもつ

ひかりぐみ

手を添えて保育士が一緒に洗うようにしたことで、自分で洗おうとする姿が見られるようになりました。洗い終わると、「パッパッ」と水気を落とし、自分でペーパーで拭いています。「綺麗になったね」と認める声をかけると「ピカピカ」と言って嬉しそうにしている子どもたち。手が綺麗になったことを認めることで意欲に繋げています。今後も、傍について声をかけ丁寧に洗えるようにしていきます。

気候が良い日には、屋上園庭に出掛けて運動用具で遊べるようにしたり、広いスペースで追いかけっこをしたりして身体を動かすことを楽しめるようにしていきます。

ごしごし
しようね

きれいに
なったね

今月のねらい：保育士と一緒に、綺麗に手を洗おうとする

ひかり・にじぐみ

先月は、水や片栗粉に触れて遊びました。水遊びでは、水をかけ合いっこしたり、スコップやじょうろで一緒に水をすくったりして遊びました。片栗粉では、さらさらの粉に水を入れると、とろっとした感触に変化したことで、驚いていた子どもたち。「とろとろだね」「手で握ったら硬くなるよ」と感触を言葉にしたり、食べ物に見立ててごっこ遊びをしたりできるようにすると、想像を広げながら楽しんでいました。これからも感触遊びを通して、探求心や想像力を育めるよう、子どもたちの発見や驚きに共感していきます。

着替える時、自分で衣服を着脱しようとする姿が増えてきました。難しいところは、手を添えて丁寧に援助し、少しずつ着脱できるようにしていきます。

色のついた片栗粉
をすくって…

ジュースの完成

冷たくて気持ちいいね

今月のねらい:少しずつ自分で着脱しようとする

にじぐみ

保育士や友だちと会話を楽しみながら、スプーンを使って食事をしている子どもたち。ご飯やおかずがこぼれないように「お皿を持って食べようね」「手はお皿に添えようね」と声をかけながら見本を見せると、皿に手を添えたり持って食べたりすることが増え、こぼすことも少なくなりました。今は上手持ちでスプーンを使っていますが、少しずつ下手持ちで食事するように声をかけていきます。引き続きマナーも意識し楽しく食事ができるようにしていきます。

今月は、いすとりゲームや色鬼ごっこなど、簡単なルールのある遊びをします。繰り返し分かるように遊び方を丁寧に説明し楽しめるようにしていきます。

お茶碗を持って
食べようね

今月のねらい：簡単なルールのある遊びを楽しむ

≪メダカたちのその後…≫

令和４年秋頃の園だよりで、楊貴妃というメダカを飼っているという話をしました。あれから月日が流れ、寿命で半分以上が死んでしまい、今では１０匹いるかいないかになってしまいました。悲しんでいたある日、キッズで飼っているメダカを年末年始の間預かることになりました。数日家で預かっている間に愛着がわき、そのまま飼育することにしちゃいました。種類としては、黒メダカではないかと思われます。暖かくなってきた頃、メダカが卵を産み赤ちゃんが産まれたのですが、小さいバケツに入れていたせいか温度が高くなりすぎて赤ちゃんが死んでしまい、どうしたら良いものかと色々と考えた結果、思いついたのがホテイアオイ（水草）を増やし、陶器で隠れ家になるような物を入れてみることでした。すると、夏場は涼んだり、冬は中に入って暖をとったりしている姿が見られるようになりました。そうしているうちにメダカが卵を産み、産まれた赤ちゃんは 1.5ｃｍ～2 ㎝ぐらいになり今では楊貴妃と合わせて推定２０匹ぐらいいて元気に過ごしています。

水槽の中を見ていて、そういえば楊貴妃って改良メダカだったよねと思い、どんな種類がいるのか気になり調べてみました。楊貴妃は、2004 年ぐらいに改良されているのですが今でも「琥珀」「初恋」「秀吉」など改良されたメダカが出てきています。卵がかえり、メダカが増えてくると水槽を分けたり大人と赤ちゃんでエサを変えたり水替えをしたりと大変になってくるのですが今回、メダカの歴史を調べてみて、体色や目、ヒレなどにも系統があり面白いこともたくさんあるなと感じました。きっともっと調べると、更にメダカのことについて知ることができるのでしょうね。はるか昔に戻ってメダカの歴史を調べてみるのもいいなと思っています。　　中村仁子